特定課題セッションⅡ「社会福祉における専門職ネットワーク研究の現状と課題」

コーディネーター：石川　久展（関西学院大学）

社会福祉領域においてネットワーク活用の必要性や重要性が大きく叫ばれている一方、ネットワークの操作的定義、理論的枠組みに始まる理論的研究やあるいは理論に演繹された実証的研究は多くはないのが現状である。そこで、本研究では、ネットワーク研究の中でも社会福祉の専門職ネットワークに着目し、その理論的研究、量的調査研究及び質的調査研究の報告を各報告者から発表してもらい、専門職ネットワーク研究の現状を整理し、今後の課題を参加者と共に検討することを目的とした。

なお、本セッションは、当初、関西学院大学の松岡会員、尾北医師会の高藤会員、四天王寺大学の逢坂会員、大阪府立大学の山野会員の 4 名の報告者を予定していたが、直前に山野会員が健康上の理由で報告をキャンセルされたので、3 名の報告者となった。

最初の報告者である松岡会員は、「社会福祉における専門職ネットワーク概念の背景と理論的課題」というテーマで報告を行った。社会福祉実践領域においてネットワークの理論的研究があまりなされていないこと、ネットワーク概念が十分に整理されていないことを指摘し、危機感を表明した上で、多義的なネットワーク概念の分類化を、連携やチームワークなどの近接概念との関連を含めて行った。

高藤会員は、「ケアマネジメント技術としてのネットワーク構築方法とその効果に関する実践的研究 」というテーマで発表された。ケアマネジメント技術の研究を目的とした、ある研究会の 7 年にも及ぶ活動軌跡をもとに、様々な研究者や現場の専門職の参加による研究会をネットワーク構築の方法と位置づけ、その効果を量的調査と質的調査をもとに検討したものであった。研究会方式という非常にユニークなネットワークの構築方法を提示されており、興味深いものであった。

逢坂会員の報告は、「社会福祉における専門職ネットワーク研究の現状と課題」というテーマでの報告であった。ホームレス支援という実践的な研究の中で、経済・労働・社会福祉・住宅・法律・保健医療など多分野・多職種の専門職ネットワークの構築が欠かせないという視点に立ち、ホームレス支援の実践を通じてみえてきた専門職ネットワークの現状と課題について報告された。ネットワークは、それが実践されてはじめて意味があるのではないかという報告者からの課題の提示は、非常に示唆に富むものであった。

各報告者の発表後、フロアにいる参加者とディスカッションを行ったが、参加者からいくつかの意見や質問が出された。特に、ネットワークという概念や定義に関する質問が最も多かった。今後、ネットワークの概念や定義を整理していく必要はあるが、各研究者がそれらを明確にした上で研究行う必要性があるのではないかという意見がだされた。研究会方式のネットワーク構築という斬新な手法についても意見交換がなされ、ネットワークを構築する方法も今後確立していく必要があることが確認された。最後に、ネットワーク

研究が単なる「研究のための研究」ではなく、実践に活かされる必要があるのではないかという趣旨の意見もあり、それも今後の課題として確認した。

コーディネーターは、今回、初めて特定課題セッションを計画したが、ある特定のテーマについて研究者同士でディスカッションを深めていく本セッションは、意義のあることであると感じた。また、同じテーマで何度か特定課題セッションを続けていき、議論を深めていくことの必要性も感じた。最後に、唯一残念なことだったのが、朝一番ということもあって、本セッションの参加者が 10 数名と少なかったことである。